

# びぜんウェルビーイング構想

岡山県備前市（2023年度選定）

<b>1. 地域の特徴と課題及び目標</b>	岡山県の東南端に位置し、市域の80%が山地で構成され、南部の瀬戸内海には大小の島々から多島美が形成され、北部は吉備高原を形成する丘陵地となっており、西端には岡山県三大河川の一つ「吉井川」が流れている。「旧閑谷学校」「備前焼」「北前船」の三つの日本遺産など、魅力的な地域資源を有する。課題としては、出生数の低下や若者の転出増により、さまざまな分野で人材不足が発生している。その解決のため、地域資源と地域学の「備前未来学」を活かし、次代を担う人材の育成や地域の魅力創出に取り組み、活気のある持続可能なまちの実現を目指す。	<b>2. 関連するゴール</b> 
<b>3. 取組の概要</b> (三側面をつなぐ統合的取組概要を含む)	備前市電子地域ポイント運用事業、びぜんSDGsパートナー制度、カーボンニュートラルの達成に向けた取組などを統合的に推進して、地域社会の自律的好循環を形成しながら、研修や実践、学習活動などを通して持続可能な地域社会の担い手・創り手を育成して、誰もが住み続けられるウェルビーイングなまちへ変革させる。	
<b>4. 自治体SDGs推進等に向けた取組</b> <ul style="list-style-type: none"><li>■ 観光資源の活用及び地域の魅力向上 「備前焼まつり」の拡充開催、SDGsをテーマにプロジェクト未来遺産に登録された「三石灯りの街」を開催等、備前市の日本遺産の活用促進や「未来遺産運動」を推進した。</li><li>■ 持続可能な社会の担い手・創り手の育成 SDGs研修会の開催、高校と連携した「備前未来学」の推進、産官学民による備前市SDGsフェスティバルの開催、公民館を拠点に「まなび塾」等を実施した。</li><li>■ 廃棄物の減量化・再資源化の徹底 循環型社会を目指し、廃棄される備前焼を回収・再生・販売するリサイクル事業等を推進した。</li></ul>	<b>6. 取組成果</b> <ul style="list-style-type: none"><li>■ 観光資源の活用及び地域の魅力向上 SDGsを内在化させた、備前市の伝統的な産業や文化、固有の風土や風習を活かした大規模なイベントの実施等により、市内観光入込客数が増加、KPIの訪日外国人旅行者数の目標達成度は170%にも至っている。</li><li>■ 持続可能な社会の担い手・創り手の育成 幅広くSDGsに通じる学び（ESD）や実践の場の提供ならびに支援により、KPIの地域の支援者数も延べ人数ではあるが大幅に増えてきている。</li><li>■ 廃棄物の減量化・再資源化の徹底 旗印ともいえる「備前焼リサイクル事業」が定着、認知されてきたことで、廃棄物の減量化・再資源化への意識と行動が、より一層地域社会全体に広がってきていて、衣類のリユースイベントなどにも多くの人が集まるようになってきている。</li></ul>	
<b>5. 取組推進の工夫</b> <p>岡山市や真庭市といった同じ岡山連携中枢都市圏のSDGs未来都市と市職員対象の研修会を行ったり、産官学民を巻き込んだ備前市SDGsフェスティバルを開催したりすることで、地域社会全体へのSDGsの浸透と協働への工夫を行った。</p>	<b>7. 今後の展開策</b> <p>今後は、協働による自律的好循環の形成に向けて、備前市版SDGs認証制度「びぜんSDGsパートナー制度」の構築を進め、2025年度の運用を目指す。本市では、行政と事業者と金融機関だけでなく、市民団体等を巻き込んだ産官学民による全市を挙げたSDGsの推進による持続可能な都市の形成を促進する。</p>	
<b>8. 他地域への展開状況</b> （普及効果）	岡山連携中枢都市圏の「ESD・SDGs研修」を開催したり、「おかやまSDGsフェア」等に本市のSDGsの取組を紹介するパネル展示を行ったり、「備前市SDGsフェスティバル」を市外にも広げることで、他地域への展開も進めている。	

# SDGs未来都市等進捗評価シート

2023年度選定

岡山県備前市

2024年9月

SDGs未来都市計画名

備前市 SDGs 未来都市計画

自治体SDGsモデル事業  
又は特に注力する先導的取組

—

## 1. 全体計画（2030年のあるべき姿）

## (1) 計画タイトル

備前市 SDGs 未来都市計画

## (2) 2030年のあるべき姿

課題である「人口減少・少子高齢化」を克服するには、若者の定住人口を増やす取組が不可欠である。夢と希望にあふれ、活力に満ちた備前市を創出し、未来に引き継いでいくために、市、市民及び事業者といった『人財』が協働し相互に理解し合い、「子育て支援の充実」「教育のまち備前の発展」「持続可能な雇用の創出・安定」「住宅施策の推進」等の施策を実施し、豊かな“自然と文化”、魅力あふれる“まち”、活気あふれる“ひと”が共存する、持続可能なまちの実現を目指す。

## (3) 2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール

経済	社会	環境
 		

## (4) 2030年のあるべき姿の実現に向けた取組の達成状況

No	指標名 ※[]内はゴール・ターゲット番号	当初値	2023年（現状値）	2030年（目標値）	達成度（%）
1	ハローワーク備前管内における就職人数【8.3,8.5,8.8】	2022年3月 430人	2023年度 366人	2030年度 430人	85%
2	新規創業者数【8.3,8.5,8.8】	2022年3月 1人	2023年度 10人	2030年度 7人	150%
3	市道浦伊部線の道路整備率【11.3】	2022年3月 0.0%	2023年度 63.6%	2030年度 100.0%	64%
4	市内観光入込客数【12.b】	2022年3月 61.7万人	2023年度 71.0万人	2030年度 94.0万人	29%
5	訪日外国人旅行者数【12.b】	2022年3月 617人	2023年度 2,376人	2030年度 1,820人	146%
6	漁業者一人当たりの水揚げ高【14.2】	2022年3月 12百万円	2023年度 15百万円	2030年度 15百万円	100%

## 1. 全体計画（2030年のあるべき姿）

No	指標名 ※[]内はゴール・ターゲット番号	当初値	2023年（現状値）	2030年（目標値）	達成度（%）
7	安心して子どもを産み育てることができるまちと思う市民の割合【3.2】	2022年3月 42.6 %	2023年6月 42.2 %	2030年度 48.0 %	-7%
8	地域の支援者数(まなび塾+含む)【4.7】	2022年3月 5,800 人	2023年度 10,480 人	2030年度 6,600 人	585%
9	公民館利用者数【4.7】	2022年3月 105,511 人	2023年度 102,615 人	2030年度 126,000 人	-14%
10	市営バスの年間利用者数【11.2】	2022年3月 86,122 人	2023年度 93,541 人	2030年度 90,000 人	191%
11	デマンド乗り合型タクシーの利用者数【11.2】	2022年3月 - 人	2023年度 11,843 人	2030年度 20,000 人	59%
12	JR一日当たりの利用者数【11.2】	2021年3月 2,158 人	2023年3月 2,307 人	2030年度 3,300 人	13%
13	ふるさとづくり事業を活用した活動数【11.3】	2022年3月 11 団体	2023年度 6 団体	2030年度 26 団体	-33%
14	公共施設の二酸化炭素排出量【7.2】	2022年3月 13,021 t-CO2	2023年度 11,588 t-CO2	2030年度 9,340 t-CO2	39%
15	リサイクル率【12.4】	2022年3月 20.9 %	2023年度 21.1 %	2030年度 28.0 %	3%
16	市民一人1日当たりのごみの排出量【12.5】	2022年3月 570 グラム/日・人	2023年度 569 グラム/日・人	2030年度 517 グラム/日・人	2%

## 1. 全体計画（2030年のあるべき姿）

## （5）「2030年のあるべき姿の実現へ向けた取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

- 指標4：「市内観光入込客数」
  - ・瀬戸内国際芸術祭や岡山DCなど周期的な行事、また備前焼フェアの初開催などにより、観光施設への観光客数は回復傾向にある。2025年大阪万博の開催を機に目標達成を目指す。
- 指標7：「安心して子どもを産み育てることができるまちと思う市民の割合」
  - ・割合は横ばいであるが、引き続き施策のPRを積極的に行うなど、目標値に近づけたい。
- 指標9：「公民館利用者数」
  - ・新型コロナウイルス感染症の適切な対策と利用促進を並行して行ったことで利用者数も増加した。引き続き利用促進に注力し目標達成を目指す。
- 指標12：「JR一日当たりの利用者数」
  - ・利用者数はコロナの影響で大きく減少したが少し回復傾向となった。引き続き近隣自治体及び関係機関との連携を図り目標値を目指す。
- 指標13：「ふるさとづくり事業を活用した活動数」
  - ・コロナ禍でイベント自体が減少しておりここ3年は落ち込んでいる。今後も見通しは不透明だが、自治会連絡協議会や広報等での周知を図り、目標達成を目指す。
- 指標14：「公共施設の二酸化炭素排出量」
  - ・エネルギー使用量はおおむね減の状況であるが、契約する電力事業者の排出係数により二酸化炭素排出量変動している。
- 指標15：「リサイクル率」
  - ・コロナ禍前の水準まで回復していない。少子化等による資源回収推進団体の減少が要因と考えられる。目標値に向け、団体の掘り起こしなど、リサイクル推進の啓発に努める。
- 指標16：「市民一人当たりのごみの排出量」
  - ・コロナ禍で市民の生活環境に変化が生じ、昨年度とほぼ横ばいである。目標値に向け、ごみの発生抑制に努める。
- 行政内部の推進体制
  - ・2023年12月に「備前市SDGs未来都市計画」を策定し各取組を推進することとした。
  - ・2023年8月及び11月に庁内職員向けのSDGs研修会を開催するとともに、全職員へSDGsバッジを配布した。
  - ・おかやまSDGs研究会及び岡山SDGs未来都市協議会に新たに加入した。
- 情報発信・普及啓発
  - ・2024年3月に「備前市SDGsフェスティバル」を開催し（来場者数約400名）、SDGsの各種取組を紹介した。
  - ・SDGsをテーマにプロジェクト未来遺産に登録された「三石灯りの街」を開催した。
  - ・おかやまSDGsフェア2023（2023年3月）に参加し、本市取組を紹介した。
  - ・市HP及び広報誌で本市「SDGs未来都市」選定を情報発信するとともに、SDGs懸垂幕を掲揚した。
  - ・市広報誌でSDGs特集として「里海づくり」を掲載した。
- ステークホルダーとの連携
  - ・岡山連携中枢都市圏事業の取組として2024年8月に「未来わくわくSDGsフェスタ」に参加し、本市取組を紹介した。
  - ・2024年3月に開催した「備前市SDGsフェスティバル」では、岡山県eスポーツ連合、(一社)みんなでびぜん、(一社)あそび庁、中国銀行、岡山理科大学、IPU環太平洋大学等10の団体と連携してSDGsの取組を紹介した。
  - ・天満屋グループと「SDGsの推進に関すること」を含む包括連携協定を締結した。
- 地方創生・地域活性化への貢献
  - ・日生町漁業協同組合がアマモ場再生の取組でおかやまSDGsアワード2023の「特に優秀な取り組み」を受賞した。
  - ・基金運用においてSDGsの推進に貢献するため、2023年5月に独立行政法人日本学生支援機構が発行する「ソーシャルボンド（SDGs債）」を購入した。
  - ・本市、天満屋、布団の西川のSDGsコラボ企画として家庭の使用済み羽毛布団を回収・再製品化し、ふるさと納税の返礼品として取り扱う取組を開始した（2023年度回収実績：23枚）。

## 1. 全体計画（自治体SDGsの推進に資する取組）：計画期間2023年～2025年

## (1) 自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況

No	取組名	指標名	当初値	2023年 実績	2024年 実績	2025年 実績	2025年 目標値	達成度 (%)
1	雇用の促進と商工業の振興	ハローワーク備前管内における就職人数	2022年3月 430 人	2023年度 366 人			2025年 430 人	85%
2	雇用の促進と商工業の振興	新規創業者数	2022年3月 1 人	2023年度 10 人			2025年 7 人	150%
3	雇用の促進と商工業の振興	電子地域ポイント加盟店舗数	2022年3月 0 店舗	2024年3月 113 店舗			2025年 300 店舗	38%
4	水産基盤の整備	漁業者一人当たりの水揚高	2022年3月 12 百万円	2023年度 15 百万円			2025年 14 百万円	150%
5	観光資源の活用及び地域の魅力向上	市内観光入込客数	2022年3月 61.7 万人	2023年度 71 万人			2025年 94 万人	29%
6	観光資源の活用及び地域の魅力向上	訪日外国人旅行者数	2022年3月 617 人	2023年度 2,376 人			2025年 1,650 人	170%
7	伊部・片上エリアの新たな都市創出	市道浦伊部線の道路整備率	2022年3月 0.0 %	2024年3月 63.6 %			2025年 100.0 %	64%
8	子育て支援の充実	安心して子どもを産み育てることができるまちと思う市民の割合	2022年3月 42.6 %	2023年6月 42.2 %			2025年 46.0 %	-12%
9	持続可能な社会の創り手（未来創生人材、ローバル人材）の育成	地域の支援者数(まなび塾+含む)	2022年3月 5,800 人	2023年度 10,480 人			2025年 6,100 人	1560%
10	持続可能な社会の創り手（未来創生人材、ローバル人材）の育成	ESD・SDGsコーディネーターの養成(認定)数	2022年3月 0 人	2023年度 3 人			2025年 15 人	20%

## 1. 全体計画（自治体SDGsの推進に資する取組）：計画期間2023年～2025年

No	取組名	指標名	当初値	2023年実績	2024年実績	2025年実績	2025年目標値	達成度(%)
11	デジタル社会への推進	マイナンバーカードの交付率	2022年3月 47.3 %	2023年度末 83.6 %			2025年 100 %	69%
12	協働によるまちづくり	ふるさとづくり事業を活用した活動数	2022年3月 11 団体	2023年度 6 団体			2025年 26 団体	-33%
13	協働によるまちづくり	「びぜんSDGsパートナー制度」登録件数	2022年3月 0 件	2023年度 0 件			2025年 50 件	0%
14	公共交通の充実	市営バスの年間利用者数	2022年3月 86,122 人	2023年度 93,541 人			2025年 105,000 人	39%
15	公共交通の充実	デマンド乗り合型タクシーの利用者数	2022年3月 0 人	2023年度 11,843 人			2025年 10,000 人	118%
16	公共交通の充実	JR一日当たりの利用者数	2021年3月 2,158 人	2023年3月 2,307 人			2025年 3,000 人	18%
17	廃棄物の減量化・再資源化の徹底	リサイクル率	2022年3月 20.9 %	2023年度 21.1 %			2025年 25.0 %	5%
18	廃棄物の減量化・再資源化の徹底	市民一人1日当たりのごみの排出量	2022年3月 570 グラム/日・人	2023年度 569 グラム/日・人			2025年 525 グラム/日・人	2%
19	ゼロカーボンシティの実現	公共施設の二酸化炭素排出量	2022年3月 13,021 t-CO2	2023年度 11,588 t-CO2			2025年 11,385 t-CO2	88%

## 1. 全体計画（自治体SDGsの推進に資する取組）：計画期間2023年～2025年

## （2）自律的好循環の形成へ向けた制度の構築等

SDGs達成に向けて取り組んでいる市内事業所、団体及び個人等を「びぜんSDGsパートナー」として登録し、行政や市外協力企業・団体とともに、各ステークホルダーが持つ強みを見える化し、協働による取り組みを進めることで、新たな事業や雇用を創出し、地域経済の活性化や地域課題の解決につなげていく基盤となる『びぜんSDGsプラットフォーム』の構築を目指して、先行自治体へのヒアリングや関係資料の収集等を実施している。

## （3）「自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

- 指標3：「電子地域ポイント加盟店舗数」  
・ポイント交付額及び交付人数の減少等により新規加盟店登録の伸びが鈍化しているため、各補助事業等でのポイント利用を推進するほか、加盟店手数料を見直すことで店舗の負担を軽減し新規加盟店登録数増を図る。
- 指標5：「市内観光入込客数」  
・瀬戸内国際芸術祭や岡山DCなど周期的な行事、また備前焼フェアの初開催などにより、観光施設への観光客数は回復傾向にある。2025年大阪万博の開催を機に目標達成を目指す。
- 指標8：「安心して子どもを産み育てることができるまちと思う市民の割合」  
・割合は横ばいであるが、引き続き施策のPRを積極的に行うなど、目標値に近づけたい。
- 指標10：「ESD・SDGsコーディネーターのESD・SDGsコーディネーターの養成(認定)数」  
・研修会等を通じて養成(認定)数の増加を図る。
- 指標12：「ふるさとづくり事業を活用した活動数」  
・コロナ禍でイベント自体が減少しておりここ3年は落ち込んでいる。今後も見通しは不透明だが、自治会連絡協議会や広報等での周知を図り、目標達成を目指す。
- 指標13：「「びぜんSDGsパートナー制度」登録件数」  
・制度を構築し、事業者登録の推進を図る。
- 指標14：「市営バスの年間利用者数」  
・利用者数も年々増加しコロナ前に戻りつつある。乗降データを確認し、利用しやすいダイヤ改正を図り目標値を目指す。
- 指標16：「JR一日当たりの利用者数」  
・利用者数はコロナの影響で大きく減少したが少し回復傾向となった。引き続き近隣自治体及び関係機関との連携を図り目標値を目指す。
- 指標17：「リサイクル率」  
・コロナ禍前の水準まで回復していない。少子化等による資源回収推進団体の減少が要因と考えられる。目標値に向け、団体の掘り起こしなど、リサイクル推進の啓発に努める。
- 指標18：「市民一人1日当たりのごみの排出量」  
・コロナ禍で市民の生活環境に変化が生じ、昨年度とほぼ横ばいである。目標値に向け、ごみの発生抑制に努める。

## （4）有識者からの取組に対する評価

- ・備前焼のリサイクルについて、新しい価値を提供することは、持続可能性につながると思う。ぜひ進めていただきたい。
- ・全体的に概ね順調に進んでいるようだが、協働のまちづくりの取組の遅れが気になる。環境・経済・社会の自律的好循環に向けても重要な取組となるため、今後の促進を期待する。
- ・岡山市、倉敷市、真庭市、西粟倉村などの経験豊かな近隣SDGs未来都市とお互いに学びあう関係を構築されるとよい。
- ・対象企業や地域が重複するのであれば、金融機関や経済圏も重複する。パートナー制度を構築する上で大切なことは、持続可能な仕組みをつくることである。岡山市と積極的に連携し、互いに上手くいく仕組みを作ることをご検討いただきたい。
- ・職員間でSDGsの取組を広げていくことを課題に挙げられているが、職員がSDGsの達成を自分事化するために、日常生活と関連付けて説明してはどうか。市民にとってより馴染みのあるものになると考える。成功している自治体は、市民の心をつかむようなキャッチフレーズを打ち出している。他の事例を参考に工夫していただきたい。